

やまぎん

アジアニュース

2019年11月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



【大連支店】

スタートした越境 EC

1. はじめに

令和の時代となり、日本では「令和元年11月11日」は「1」が5つも並ぶ、縁起の良い日となりました。一般社団法人日本記念日協会は11月11日の記念日が45件も認定登録されており、1年で2番目に多い日だそうです。おなじみの「ポッキー&プリッツの日」「めんの日」、また、韓国では「ペペロデー（韓国版ポッキーの日）」など様々な記念日がありますが、中国では「光棍節（独身の日）」という記念日になり、この日は5兆円を売り上げる一大ネットショッピングのイベントが毎年行われています。

中国のネットショッピングは通信インフラが整備され年々盛り上がりを見せていますが、大型連休である国慶節（10月1日）前にも消費が活発になります。この時期に日本産品をPRする場として一大イベント「大連日本商品展覧会」が9月27日から3日間、大連世界博覧広場（星海広場内）で開催されました。また、この展覧会に合わせて当グループ主催の「越境ECセミナー」「2019遼寧省中日商談会」および「商品販売会」を開催しました。今回はそれらイベントでもテーマとなった越境ECについて紹介します。



写真：展覧会の様子

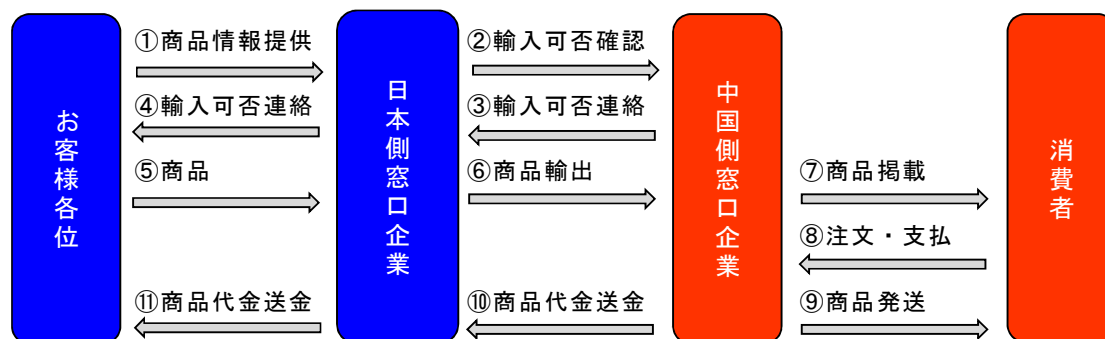
2. 動き出した越境 EC サイト「EddiMall」

海外市場の販路開拓において中国マーケットは人口や経済規模からも大変魅力的ですが現実に販売を行うとなると有力なバイヤーとの出会いやマーケティング、商品開発、通関手続き等、参入に当たって課題は少なくありません。2019年5月、大連支店の紹介により大連と広島企業が連携して「EddiMall」というECプラットフォームを立ち上げました。越境ECは通関手続きの簡略化や税負担の軽減など、一般貿易と比べると多くのメリ

ットがあります。取扱商品は 1,321 品目に限定されていますが、一般貿易では難しい商品も多く含まれています。越境 EC の市場規模は 2018 年は約 74 兆円でしたが、2020 年には約 109 兆円になるとも言われており、年々拡大しています。

この「EddiMall」は越境 EC のメリットを活かして、中国にいながら日本商品を手軽にしかも安価に購入できるサイトで、「日本各地の地域物産」、「中国国内であり流通していない商品」、「日本製」と「本物」の取扱等、他のサイトとは一味違う品揃えとなっています。近年、中国人旅行者が日本のドラックストアなどで大量に購入した商品を中国に持ち帰る「爆買い」は、ネットを通して転売されることが多く、これが脱税行為と見なされ社会問題となっていました。2019 年 1 月から中国電子商取引法の施行により、グレーゾーンにいた転売業者が排除されたことにより、今後は正規のルートを経由した越境 EC がますます拡大することが見込まれています。

プラットフォームで大連側の窓口である貿易会社は一般貿易では既に多くの日本企業と取引のある企業で、通関・倉庫・物流までを全て自社対応する貿易会社です。中間コスト削減により今までにない安価な価格設定を実現しています。また、日本側の窓口である物流会社は広島にて通関・倉庫事業を行っている企業で、日本側の物流の取りまとめから通関申請、掲載サイトの作成等を行います。「EddiMall」への出店は大手サイトに比べると小ロットかつ低コストでスタートできます。日本の中小企業にとっては低リスクで中国での販路開拓に挑戦することができます。



3. 越境 EC セミナー

9 月 26 日、大連フラマホテルで越境 EC セミナーが開催され、200 席の会場は満席になる盛況ぶりでした。セミナーは大連市商務局、中国の貿易会社、日本の物流会社、山口銀行の代表者が登壇し、大連市保税區を活用した越境 EC による商流・利点等を説明しました。越境 EC の特徴（例：関税がかからない、一般貿易より規制が緩和されている）や販売形態の違い（直送モデルと保税區モデル）、また、今後大連で予定している販促イベントを紹介し、参加者からは「混載便で少量の在庫で挑戦できるこ



写真：山口銀行大連支店の説明

とはメリット。」「コスト負担が少なく低リスク。」「これまでは一般貿易しか選択肢がなかったが、越境 EC の取組は中小企業にとってメリットがある。」といった感想が多く寄せられました。

4. 2019 遼寧省中日商談会

9 月 27 日、大連世界博覧広場 2 階で 3 回目となる「2019 遼寧省中日商談会」が開催されました。今回は中国向けの輸出促進をテーマに日用品(越境 EC 商品を含む)を取り扱う日本企業を募集し、日本側は 101 社が参加しました。越境 EC は基本的に BtoC ですが、売れ筋商品はバイヤーが買い取り、バイヤーが越境 EC のプラットフォームに掲載することもできます。今回の商談会では越境 EC で持ち込まれた商品が加わったことから、一般貿易では取り扱えなかった初めて見る商品に、制限時間が過ぎても熱心に商談を続けるテーブルもありました。



写真：商談会の様子

参加企業の事後アンケートでは、約半数が今回初めて中国での商談会、展示会に参加した企業であり、「今後につながる面談ができた…71 件」、「商談がまとまった…6

件」、「成約(見込み含む)金額では数万円～数百万円」といった回答がありました。また、個別の意見としては「中国での状況を掴むことができた。」「市場ニーズがあり、潜在性があることが分かった。」「一般的な展覧見本市と異なり、落ち着いて話せたことが良かった。」といった前向きな意見がある一方、「予定の中国企業が来ず逆営業が多かった。」「事前にこちらの商品の告知が必要。」といった意見もあり、中国での商談会の難しさを垣間見るものもありました。

5. 商品販売会

越境 EC 商品の販促会及び一般貿易商品の販売会は 9 月 27 日から開催している「大連日本商品展覧会」と同会場にて 9 月 28 日、29 日の二日間行われました。「大連日本商品展覧会」は今回が 11 回目の開催で、特に 28 日は休日(29 日は振替出勤日)ということもあり、来場者数は 3 日間で延べ 10.6 万人と前年比 3.8 万人増加しました。毎年参加する企業は「前年以上の売れ行き。予想以上に完売するのが早かった。」「急遽、在庫を持ち込んだがそれでも足りなかった。」という声が聞かれました。主催機関によると、来年は今年以上の規模で行う予定とのことで、出展者の中には、次年度の商品選定、数量について検討し始めるとの声もありました。

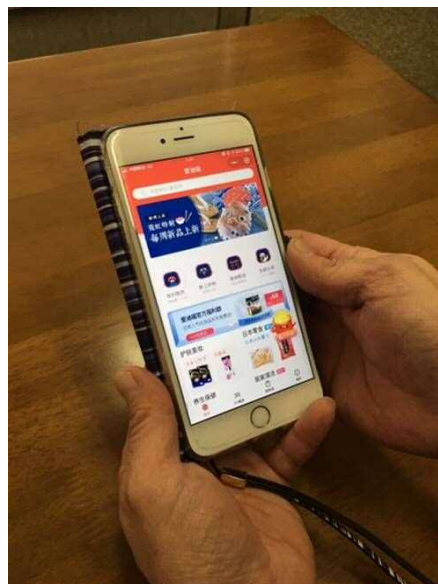
また、今年は従来の一般貿易商品に加え、越境 EC 商品エリアも設けられました。越境 EC 商品エリアはこれまで規制により輸出が難しかった食品や化粧品等もあり、化粧品ブースでは試供で商品を気に入り、ブースに設置された購入の手順書を見ながら、QR コードを読

み取り、2,250 元（34,785 円、1 元=15.46 円）のセット商品を購入されたお客様もいらっしゃいました。

6. 終わりに

中国のスーパーや百貨店、コンビニで見かける日本商品は大手企業が取り扱うハイブランドな商品が大半ですが、今回開催した「遼寧省中日商談会」や「越境 EC 販促会」では中小企業が独自に開発したオリジナル商品を中国に向けて宣伝することができました。日本側企業は越境 EC を通じて自社商品を中国でも販売できる状況を作り出すことが可能となり、販促会は消費者の反応を知ることができる機会として活用されました。また、中国側企業にとっても中国初の商品に触れ、これから人気が出る商品を自ら発掘できる機会となりました。越境 EC は今後、貿易促進のツールの一つとして、益々身近なものになると期待されます。

大連支店では、引続きお客様に様々な情報を発信し、お役に立てるよう努力してまいります。中国で新たな事業展開をご検討の際は、大連支店にお気軽にご相談ください。



写真：スマホで簡単に日本商品を購入できる

(山口銀行大連支店 池岡 慶了)

【参考文献】

- ・一般社団法人日本記念日協会サイト：<http://www.kinenbi.gr.jp>
- ・EddiMall サイト：<http://www.eddimall.com.cn/>